内外タイムス THE NAIGAI TIMES

11月6日 日曜日 5日発行
昭和30年 西暦1955年

発行所 内外タイムス社
東京都中央区銀座3の5
電話 代表 京橋(56)8646番
直通 販売(〃)0437 広告(〃)3995
編集局 港区芝金杉川口町13
電話 代表 三田(45)8136番
振替貯金口座 東京170071番

第3270号（昭和24年6月22日 第三種郵便物認可・昭和24年5月27日 国鉄特別扱承認 第232号）
（中華郵政台字第637号執照登記為第2類新聞紙類・内政内鎖証報僑内台警字第0136号）

あすの暦 11月6日（日） 旧 9月22日
月齢 21.3
日出 6.07
日入 4.42
月出 前後10.43
月入 後前11.44
満潮 前後 10.25 8.50
干潮 前後 2.55 3.15
（小潮）

天気予報
今晩 南西のち北寄りの風晴時々曇。
明日 北寄りの風晴れたり曇ったり、晩一時しぐれる。

政権担当の決意

社会党、大阪で遊説第一声

重光 砂田 両相不信任を用意

鈴木委員長演説

鈴木委員長

【大阪発】社会党は五日午後二時から大阪市天王寺区天王寺音楽堂で大演説会を開き、約三千の聴衆を前に統一後地方遊説の第一声を放った。会場には鈴木委員長、浅沼書記長、河上顧問をはじめ各局長ら党最高首脳が顔をそろえ、国民の前にはじめて統一の経過を報告し、それぞれの立場から党の政策をうったえた。特に最後に登壇した鈴木委員長は約四十分間にわたり外交問題、地方財政問題などを取上げ鳩山内閣の欺瞞性を追及、来るべき臨時国会で砂田、重光両相の不信任案を提出して保守党と対決し、次期政権を担当する用意のあることを明らかにした。

この日会場は中央公会堂がとれず、足場の悪い野外だったが秋晴れに恵まれ、また両社がもっとも激しく対立していた土地柄だけに大会は意外に関心を集め、約三千人が音楽堂を埋め、天王寺公園にたむろするニコヨン達もまじって熱心に聞き入っていた。演説会は同五時終了、鈴木委員長ら党幹部は直ちに大阪府立労働会館で労組代表と懇談、国際見本市会館で両社婦運との夕食会に臨む。

十五日に結党大会

自由党総務会で了承

自由党は五日午前十一時から平河町の党本部で総務会を開き、総裁問題を中心に新党結成について協議した。まず結党大会を十五日に開くことを了承、石井幹事長から常任世話人会、四者会談の経過報告が行われ、これをめぐって意見を交換した。

結局、同日午後一時からの準備会世話人会の前に零時半から院内で同党側の世話人全員が集り、今後の打開策などについて話合った上、準備会世話人会に臨むことを決めた。

同日の総務会では松野頼三、小野義大氏らから『参議院を軽視する民主党案は絶対認められない』鈴木善幸、山中貞則、橋本龍伍氏らから『世話人会からさらに準備会総会におろし、大衆討議をせよ』加藤鐐五郎氏らから『まず解党することを両党とも決めるべきだ』などの意見が出され、保利茂、周東英雄氏らの提言により同日の総務会の意見を参考にしてさらに自由党側世話人のみで話し合うこととなった。

町村合併功労者表彰式 政府は五日午前十時から首相官邸で町村合併功労者の表彰式を行った。川島自治庁長官のあいさつ、鳩山首相式辞（根本官房長官代読）ののち、総理大臣表彰の群馬県碓氷郡松井田町長大河原源五郎氏ら個人六氏、栃木県那須郡烏山町ら六団体および自治庁長官表彰の四十氏、四団体にたいし川島長官からそれぞれ表彰状が授与された。

『欧州安保』を討議？

あすダレス チトー会談

㊤ダレス長官 ㊦チトー大統領

【ジュネーヴ四日発ロイター＝共同】四国外相会議出席中のダレス米国務長官は四日ウィーンを訪れ、再建された国立オペラ劇場のコケラ落しに列席した後、六日空路ユーゴを訪問して、ブリオニ島でチトー大統領と会談する。消息筋が語ったところによると、ダレス長官はこの会談で、ソ連が外相会議に提案した欧州安全保障計画にたいするユーゴの反響を打診するものとみられている。モロトフ外相はその安保条約案の中で条約加盟国候補としてとくにユーゴ、デンマーク二国の名をあげており、ダレス長官はこれについて事前にソ連からユーゴに連絡があったかどうか、またこれにたいしてチトー大統領がどのような考え方をしているかを知りたいと考えているもようである。

政界春秋

政治のチーム・ワーク

細川隆元

米大統領のアイゼンハワーがこの十一日に退院できるかも知れぬという。世界平和のためにも喜ばしいことである。

アイクが倒れた時は、来年は大統領選挙の年でもあり、また国際的には彼の平和政策に大きな暗影を投ずるのではないかと内外で大きな波紋を描いたことは周知の通りだ。一体アイゼンハワー政策はどうなるんだろうと、米国人も外国人も心配していたが、その後の政府要人のやり方をながめていると実に手際がよく着実で、政府部内に少しの動揺もなかった。

米国にだって大統領が倒れて、大混乱に陥った例があった。例えばジェームス・ガーフィルドという大統領が凶弾に倒れてから死ぬまでの八十日の期間、またウッドロウ・ウィルソンが中風で病床に就いた期間がそれであった。これは政府部内のチーム・ワークがとれていなかった結果である。

アイクが三年前大統領選挙戦に臨んだ時、彼はこう演説して回った。『私はアメリカの力を代表する一人の個人、一つの象徴を選んで下さいと訴えようとしてはいません。一つのチームをワシントンに送ることが必要だというのです』と。彼は、今年四十二才の若いニクソン副大統領候補と二身同体となって選挙を戦い、そうして当選した。アイクは反対党の民主党が重用していたダレスを国務長官に抜き、シャーマン・アダムスという知事上がりの有能な腹心を側近第一号の顧問とし、鉄壁のチームを作り上げた。

米国の歴史でアイクほど副大統領を活用した大統領も少い。従来の副大統領は全くの無用の長物でしかなかった。大統領が死んだ時、憲法の規定で、否応なしに大統領にノシ上がるための存在でしかなかった。それがニクソンは、アイクの指導で閣議でもしばしば彼の代理を勤めて、常にウォーミング・アップをさせられている。政治のこのチーム・ワーク、これこそアイクの作った大きな功績である。

だからアイクは、自分が倒れても少しも心配はいらなかった。デンヴァー陸軍病院の病床から簡単な指図をするだけで、政府の機能はいささかの混乱もなく動いている。驚くべきチーム・ワークである。

日本の政治の欠陥は色々あるが、一番目につくのはチーム・ワークのまずさである。保守党も社会党もまずい。日本の政党人は、保守も革新も、一人々々をみると中々立派な選手がいるが、チームを作ると全く穴だらけになる。二頭外交があったり、三頭外交があったり、外交を政争の具にして政権争奪をやったり……。だから、こんなチームは、外国に遠征すると全くもろいものだ。チーム・ワークの悪い野球はみていられないのと同じだ。保守も革新も、後楽園と甲子園を共通のホーム・グラウンドとしてゲームをして貰わぬと、一番困るのは国民じゃなかろうか。

再び民自四者会談で討議へ

岸幹事長談

岸民主党幹事長は五日午前十時半千駄ケ谷の三木邸で、同日午後の新党準備会の世話人会と常任世話人会の進め方について三木総務会長と会談したあと、同十一時すぎから院内で開かれた民主党側の世話人会に出席した。岸幹事長は三木氏と会談後次のように語った。

一、きょう午後の世話人会と常任世話人会にのぞむ態度を中心にこれからの進め方について打合せた。世話人会で総裁公選方式は討議されても結局常任世話人会に一任することになろう。世話人会のあと開かれる常任世話人会でも収拾方を民、自四者会談にゆだねることになろう。四者会談は時間の関係できょうになるか明日になるか判らない。

一、総裁公選の場合は首班指名方式がよいと思うが、最後までこの方式を押し通せるかどうか判らない。要は鳩山総裁を実現することが目標だ。

年末手当二ヵ月分

官公労要求

官公労の佐久間事務局長ら代表十五氏は五日午前十一時半首相官邸に根本官房長官を訪問

一、公務員の年末手当二ヵ月分を支給せよ。

一、このため政府は臨時国会で補正予算などの立法措置を講じ実現に努力されたい。

と要請した。これに対し根本長官は『人事院勧告の〇・二五ヵ月分増額については、現在どうすれば支給できるか検討中である。大蔵省当局は財源難から反対しているが現業大臣らは増額すべきだと強い意見を述べている。このため大久保国務相が各方面の資料を集めて一万田蔵相との調整を急いでいる』と答え、二ヵ月分支給の要求には確答を避けた。

東京のエトランゼ ④ アメリカ

ペギー・トミイ嬢（米人小学校教師）

月12万円の小遣い

○…立川米軍飛行場内にアメリカ軍人子弟のための小学校がある。小学校の先生は四十人くらいいるが、男の先生はたった二人、ほかは女の先生―それもほとんど未婚の女性である。その女の先生方が毎週木曜日の夜、やはり飛行場内にある寄宿舎で『日本人形』の講習会を開いている。

○…ペギー・トミイ嬢(二五)はその講習会のメンバーで、学校では三年生を受持っている。パパさんはミズリー州の学校の小使さんだが、かの女はワシントン大学を卒業した。日本に来たのはこの八月だが、京都に遊んで舞妓の踊りも見たし、近く十一日間の予定で香港見物にゆくというから日本の先生方とはケタ違いである。それもそのはずで年俸三千八百ドルというから月給にして十二万円近く、しかも寄宿舎はタダ、食事も飛行場の食堂でとるから、月給は丸々お小遣いである。

○…日本の感想は『ベリー・ナイス』の一言だったが、雨が降って道が泥んこになることと、ラッシュアワーの電車の混雑が嫌だという。かの女はいま人形の外に、生花と日本語を習っており、時々銀座へ『スキヤキ』を食べに行く。但し日本茶は大きらい。しかし『お酒』はチョイといけるそうだ。

粋人酔筆

守る会

杉原鶴華

東京の或る花街に、雑誌のグラビヤ写真にも載ったことがあるほど可愛く、そしてあどけない雛妓（おしゃく）がいた。つい先ごろまではお座敷にあらわれて、そのマスコットぶりを発揮していたが、年が十八才未満だったことがバレて自粛を余儀なくされ、今はお座敷をひいて、白粉を落したおさげ姿でただの小娘となり、買物籠をぶらさげたり、自転車に乗ったりしての使い走りで、時の到るのを待っている。時の到るのを待つというのは、この十二月八日になるとちょうど満十八才になるし、そうすれば大手を振ってまた返り咲きが出来るからだという。

この妓の名を仮りに、はじめちゃんということにしておく。

昔と違って未成年の芸者づとめは、法律が禁じているので、可憐な雛妓姿はしているが年を聞いたら二十二才なんてのもいるし、従って薄っとぼけたカマトト雛妓の多い中に、このはじめちゃんだけは天真爛漫で、ゆうべは初蝶のように小さな川一つも越しかねて、姉蝶々の膝に甘える風情があるかと思えば、今夜は秋の蝶にも似てどこかいじらしい趣きを見せて、粋客の肩にとまるといった感じを受取らせて、誰彼にも異存なく好かれる妓である。巧まざる技巧のあらわれともいえよう。

ある有力なジャーナリストの集団で、いつの間にか『はじめを守る会』というのが出来てしまって、この清純さは永久に守るべきだとし、少くとも、この集団からはその憎むべき異端者は出したくないというのが、その会則の第一条であって、第二条からあとは何も書くことがないといい、空文のままだった。

第一条だけという会則は忽ちにしてその不備を露わして、この守る会の会長には、我も我もと一挙に五人も出来てしまった。そんならみんな会長にしてやる。俺は書記長で甘んじるよ、という奇特なのも出て来て、この妓の動静やら連絡やらはその人が一手に引受けてしまった。会長はおさまっているものだし、実際の仕事は書記長がやるという建前からいえば、五人の会長はグウの音も出ない訳で、頭のいい人ばかりの寄り合いの中にも、更に更にこういうずばぬけた頭脳の持主がいるものだ。

最近の情報によると、いよいよこの妓は満十八才の誕生日たる十二月八日から、再びお座敷へ侍んべるとのことで、そこは紳士協約のことでもあり、書記長たるもの、このビッグニュースを握りつぶすわけにもゆかず、渋々ながら全会員、いや全会長に情報を流した。但しそれには付帯注意事項がある。曰く『十二月八日といえども断じて真珠湾の故知にならっての奇襲攻撃はせざること』というのだ。

さてこの緒戦がどう展開するか、十二月八日の未明あたり、その花街付近海域には、何艘かの特殊潜行艇が、潜望鏡をくるくると回しながら待機しているのではないかとも思われるふしがないでもない。しかし機密事項が既に第三国たる私の耳にまで入っている以上これは真珠湾ほどの戦果は上るまいと、少くとも私一人は楽観している。たとえ多少の危惧はあるとしても、この崇高なる精神をもつジャーナリスト船団が、本来の主旨とする『守る』という平和的な姿に対して異常な尊敬を払っている私が、それを裏切って相手方に通報するなどという卑劣な考えは毛頭ない。もっぱら国連の立場を堅持して、その日を静観することにしたいと思っている。但し率直にものを申すなら静観という二字の上に『興味をもって』とうけ加えてもよろしい。

なお私が楽観しているという含み材料としてはこの集団が、年に二回位しかないという総会を、今年は十一月に繰上げて開催し、しかも会場をその花街を遠く離れたシマに持込んだ一事で、これは十二月八日までは手を出すなという無言の指令とも受取れるし、限りある戦闘資材を十一月にみんな消耗させてしまえば資源にとぼしい財布からは十二月八日の悪夢は再現しまいという心やりのあらわれでもあろうと、善意に受取ったからでもある。

『売春等処罰法案』などという法律が出来る前に、すべての妓に『守る会』が出来、そこに遊ぶ人々が、それぞれにその会長さんだったら、花街もさぞかし綺麗な緑地となって、彼女たちもまぶしいばかりに清純な花を咲かせることであろう、などと思ったりしてみた。

東京株式仲値 □新株落△当落（5日終値）							
特定銘柄							
東海上	240	日立	80	三菱鉱	53	台糖	270
郵船	59	東芝	64	古河鉱	81	明糖	125
新三菱	74	三洋電	296	同和鉱	140	甜菜糖	124
日清紡	261	松下電	169	住友炭	63	野田	205
味の素	299	八電	181	三井山	65	森永	180
三越	286	東洋紡	175	北海炭	67	明菓	180
三菱地	480	鐘紡	132	日鉄鉱	400	日水産	101
平和不	213	富士紡	122	商船	46	昭和産	118
日東化	101	大日紡	86	三井船	48	東洋醸	96
日産化	87	日東紡	63	西武	370	合同酒	156
三菱化	124	片倉	33	藤田興	203	三楽	133
三井化	146	東邦レ	128	飯野海	58	大阪糖	171
協和醗	134	帝麻	35	日銀	1890	三井物	158
東合成	151	中織	45	東銀	54	第一物	146
三共薬	171	帝人	164	三井銀	74	白木屋	256
信越化	95	東洋レ	215	富士銀	88	高島屋	107
東高圧	168	三菱レ	135	日証金	71	大丸	282
昭電工	125	倉レ	135	安田火	96	日活	73
日本曹	104	旭化成	397	大正海	89	松竹	216
旭電化	90	山陽パ	150	住友海	80	東宝	1340
三菱造	94	日本パ	120	千代田	75	大映	177
三井造	130	国策パ	143	東電	622	王子紙	250
三菱重	63	東北パ	129	関西電	659	十条紙	288
石川重	91	日毛	241	鋼管	85	本州紙	94
精工	135	帝石	85	日製鋼	70	三菱紙	92
東洋ベ	121	日石	117	八幡	64	北越紙	65
日立造	58	昭和石	155	富士鉄	59	日セメ	167
浦賀	61	東燃	144	神戸鋼	54	磐城セ	282
日本光	143	三菱石	153	日特鋼	108	小野田	93
キヤノ	165	大協石	153	日軽金	168	富士写	163
理研光	58	三井金	113	日金工	73	小西六	109
三菱電	86	三菱金	115	日本粉	132	横浜ゴ	150
		日鉱	114	日清粉	127	旭硝子	178
		住友金	117	日本ビ	179	三井不	766
				朝日ビ	194	三井倉	82
				キリン	213	渋沢倉	85
				宝酒造	129	東洋埠	202

市況

休日ひかえに低調

休日を控えて全般に見送り人気を深めているが、大証券の消極的態度に加えて一部に九月決算の減配売がみられるなど地合は弱含みを改めず市況は概して小浮動のうちに低調なジリ安歩調をたどった。特定株は融資残の三十億円台割れにかかわらず買気に乏しく、海上が山崎買に小確りを保ったほかはほとんど一―三円安と気重い。雑株も化学、砂糖、電機資源株の一部に小口売が続いて小巾ながら下押すもの多く、特に三井金鉱が減配売で十三円方崩れたのが目立ち、この間わずかに増配公表の三井化はじめ昭石、大丸など数銘柄が散発的に六―十円高を示した程度。

▽安い株＝三井金鉱十五円、日立工機十一円、日興、藤沢薬、東北電、横浜糖、住商五円

▽高い株＝常磐炭十円、三井化、大丸七円、昭石、渋沢倉六円

地獄耳

銀行と与党のコンニャク問答

銀行界の旗頭、堀（勧銀）小笠原（三菱）佐藤（三井）迫（富士）堀田（住友）氏らが、与党のやかまし屋を、帝国ホテルに招き〝懇談会〟を願った。岸幹事長から出席したいが、何としても時間の都合がつかない。諸君が行って、よく話をきいてくれ給え、とオダテ上げられた千葉三郎、福田赳夫、三浦一雄、森下国雄、遠藤三郎、早川崇、堀木謙三氏らが、喜び勇んで出席した。

代議士連の仰せは『オーバー・ローンは四千億円から七百億円になっている。すでに三千三百億円は返済されている。金利引下げは避けられぬ情勢にありましょうナ』の大局論につきている。これに対し頭取連『金利を一厘下げたと致しましても、百二十億円違って来るのです。その辺のところもお考えの上、慎重の上にも慎重にせぬと大事を誤まりますで……ヘエ』と相変らずのコンニャク問答。金利はこんな公式の席で〝理論〟できまるモンでないというのが観測筋の消息だ。

内外抄

結党大会の日取りだけがきまったとは笑わせる。ヤマは見えぬが着く時刻だけきめとくとさ。

◇

『話合による公選』、しぼり出した民主側の知恵、公選にもいろいろござるとね。

◇

地方財政改善策のため設けた『閣僚懇談会』、『小田原評定の会』とした方が良さそう。

◇

公務員の年末手当増額には金がないと一万田蔵相、ないのを工面するところに値うちがある。

◇

普選、婦人参政の記念週間はきょうから。空気のようになって今は有難味も分らぬそうな。

ないがい川柳

吉田林司選

機嫌とる土産忘れず千鳥足　広島　神田たけ詩

お離れの三味線ペン〳〵だけで済み　中野　林加満子

七五三親馬鹿子より厚く塗り　江東　鴻池重子

プロレスの時代骨継ぎよく流行り　横浜　渡辺夢生

台風は休憩泊りにさせて去り　川崎　小宮せいじ

人造の紅葉が赤いアルサロン　千代田　南渡波

近頃の大人子よりも漫画好き　福島　佐々木正文

青春無宿 (179)

大林清 作
下高原健二 画

転落の道（六）

光代はいったん村岡宝石店の前を通りすぎたが、思いなおしてもう一度ひきかえすと、おずおずと店内へはいって行った。

宝石店の客にしては、光代の姿は見すぼらしかったので、店員たちは怪訝の眼で迎えた。いや、少くとも光代にはそう思われた。

『あの、ちょっとおたずねしますが、こちらに宇田次郎さんはお見えになっておりましょうか』

女店員たちは顔を見合せたが、奥にいた男の店員が、

『宣伝研究所の宇田さんですか』

と、案外愛想よくきいた。

『ええそうです』

『たしかまだ奥の事務所にいると思いますよ』

次郎は何かを探り出そうとするような眼で、光代を見まわした。真弓に聞いた菅野の頓死が、その後の光代にどんな変化をもたらしたかを知りたかったのだ。

光代も次郎がその事件を知っているのを感じた。菅野との間を誤解されているような気がし、その弁解、唐突にその弁解も出来ずに、並んであるきだした次郎の視線から顔をそむけた。

『何か事件があったそうですね、巻添えを食ったんじゃなかったんですか』

次郎は光代の心を傷つけまいとする思いやりをこめて云った。

『軽蔑なすったでしょう』

『軽蔑？ いいや、僕はあなたを

光代は救われたような気がした。

男の店員は気軽に奥への通路をはいって行ったが、間もなくもどって来たその後には、次郎の姿がつづいていた。

次郎は光代をみとめると、意外そうに眼をみはった。無精髭が伸びているせいか、いつもとはちがった感じに見える次郎の顔だった。

『あなたでしたか』

次郎はそう云ってから、店内の視線が自分たちに集っているのを意識したらしく、

『出ましょうか、ちょうど僕は用事が済んだところなんです』

と云って、入口近くに立っていた光代を追い立てるように外へ出た。

『この間はどうも御迷惑をおかけしまして』

『どうしたんです。心配していたんですよ』

ふり仰いだ。いたわるように云われたことに、何か胸に沁みる想いがあった。

『あたくし馬鹿だったんです』

溢れて来る感情をせきとめられずにそう云ってしまってから、肝腎な用事を忘れていたことに気がついた。

『大渕さんという人、ご存じですの？』

次郎は思いがけない言葉を聞いたように、光代の眼をみつめかえした。

『区会議員なんぞをやっていたことのある大渕ですか』

光代は眼でうなずいて見せた。

『どうしてあなたは大渕を知っているんですか』

『今日、ある用事でお目にかかったんです、それであなたにお知らせしなければならないことがあって、今アパートの方へうかがいましたの』

銀座夜妖香

オムニバス・ルポ

パリのマロニエ銀座の柳、その柳の葉がペーブメントに舞い始め、きょうは早くも十一月一週の終り。あと一ヵ月もたてば空ッ風が吹き、慌しい師走がやってくるのに銀座人は無頓着。いやそんなことは観念してか、Yラインは泳ぎ、靴は鳴り、表八丁、東西両八丁併せて二十四丁は人波で賑わっている。これはそんな銀座にとらえた新兵器満望鏡や舶来デバカメ事件、さては旅情女の流行語スピッチ！など題して『銀座夜妖香』—

女風呂、カメラの奇襲 平謝りの舶来デバ亀

○…銀座にはいま六軒の銭湯がある。その一軒から、ごく最近百十番がかかって来た。『たいへんです。外人兵が女湯に飛込んで来てパチリパチリと写真を撮っています』というご注進なのである。『スワ一大事！　舶来デバカメ！』と、所轄築地署のお巡りさんが、オットリ警棒でかけつけた。成程、いささかごメイテイの外人が、てんやわんやの女湯の中に、カメラを向けてニターリニタリとご満悦。キモをつぶした娘さんなど、湯槽へ飛込もうと思ってもすでに満員。至し方なくあっちへウロウロ、こっちへウロウロ。（もっとも、大事なところは、手拭いと風呂桶でかくしていましたがね……）

○…そこへ現われたお巡りさんこの時ばかりは役得で、片目は風呂場にやりながら、残った片目を怒らせて『困りますね、ご冗談は！』と無理矢理いやがる（無理もありませんがね）外人をやっとのことでひきずり出した。冷たい風にふかれた途端、件の外人、酔いからさめたか『ゴーメンナサイ、ポリスサン、ゴーメンナサイ』と平謝り。『ではフィルムは押収しますよ』に、見るもあわれな面持で『シーカタありまシェン。でーも三分…サッパリ何も出て来ない。出て来る女はみんな洋服姿。まさか、裸の女を現象したら、洋服姿で出て来たなんて、そんな馬鹿気た話はないと、首をひねってよく調べたら、湯気でレンズが曇ってしまい、湯浴みの裸婦は一枚も写っていなかったのだ。せめてネガでも拝見しようと、待ちかまえていた外人と係官、真っ白なフィルムを電灯にかざしながら、『とさわがせな』と、期待をされて見送りの三振—。

私のコイビートの写真も写っています。それは返してクダーサイ』か。『然らば現像した上で、関係のないものはお返ししましょう』てなことで、喜んだ（きっと喜んだと思うのだが）のは鑑識係のお巡りさん。こいつはとんだタナボタとせて現象に及んだ。欣喜雀躍暗室へ—。胸はずま一分、二分、

白昼の数寄屋橋 人妻暴行未遂事件

○…ところもあろうに、春樹、真知子の数寄屋橋公園で、白昼人妻が強姦されそうになったという事件があった。しかもその現場が、交番の真裏だったというからて驚く。もっともベッド・カーなどといって、車の中で感極まった彼氏と彼女が、下半身裸体でネチネチ……などという東京とあってみれば、こんなくらいはほんの前座かもしれないが……。すっきりと晴れた、ある日の午後のことだった。月島に住む某会社員の人妻が、買物で疲れた体を休めようと、公園のベンチに腰を下した。付近には人影はなかったが、先程から、ムシロの上で昼寝していたパタヤのハチ公は、薄目を開けて、B子さんの足の下から富士山でも見上げるような熱っぽい眼ざし—B子さんが腰を上げて立ちようとしたとき、たまりかねたかハチ公は、B子さんに飛びついていった。口をふさがれたB子さんは、声も出なかった。この現場を見つけた通行人が『こら！いたずらをするんではない！』と怒鳴りつけた。しかしハチ公は、この忠告者に澄まして答えていってやがんでえ、俺らのとふざけるのに、どこが悪い』通行人は『だったら無理…』とその場を立ち去った。…は『シメタ！』とばかりB…を自分の住家へ引きずり込…住家といっても、ムシロか…と離れていない、交番の裏…タンとムシロの小さな家だ…公はB子さんの上に馬乗りになった。

○…『邪魔物は外せ！』と、パンティへ手をやった瞬間、ハチ公は襟首をつかまれた。そこには、交番の巡査が立っていた。しかし、全く危機一発という瞬間だった。もし巡査が小屋の様子が変だと気づかなかったら、B子さんは、ハチ公の餌食になっていたかも知れない。ハチ公は築地署のブタ箱で小さくなって『交番の裏なら…と思ったが、やっぱり悪いことは出来ねえもんだ—』と頭をかいていた。

土曜日の11時 淑女の集まる時間

…見分ける法は、ハイヒールのカカトを見ればいいんだそうだ。今年の流行は何とかいうカカトの細いのが流行で、銀座娘は三杯のゼンザイを二杯にけずり、月給袋をはたいては、このハイヒールを買おうと、四苦八苦しているそうだ。銀座娘はいつも流行と追いかけっこをしている暇人かも知れない。

30Wの流行語

○…『あんたどこの間つれてたスピッツ、ちょいいけるワネ……』『あら有難う…』『前のはどうしたの？』『あんまりほえたりかみついたりするんで、ポイしちゃったの』『満更悪いタネでもなかったんでしょ？』『そうでもないワ、ゼイタクなのよ。それに比べりゃ、今度のなんか、お金もかからないし毛並はいいし、それに頼んだお使いもちゃんとしてくれるし…』『へえ…』『それにね、手をにぎってやったり軽くほおずりしてやるだけで、お喜びなんだから…』『あんた、自分ばっかり楽しんでないで、たまにはあたしにも紹介してよ…』ある銀座の喫茶店での旅倩型三十Wと三十Wの会話である。

○…何のお話をしているのかと思ったら、若きツバメのお話なのだ。スピッツというのは、三十W族ご愛用の流行語なのだ。然らばツバメに立候補—とばかり『お嬢さん、私はどうかね』と身をのり出したある紳士『ブルドッグは必要としませんの、ゴメンあそべ』と軽く一蹴されたとか。『ああ、人間スピッツに生れたいもの』

グランド アルバイトサロン エビス 新宿三越裏通り

風流世界譚 …（アルゼンチン）…

ブエノスアイレスに住むペロロンという伊達男は女千人斬りを豪語しておりましたが何分金持ちの上に四十の男盛りときていますので、五十人、百人とその数が増えて行きました。そのなかには女優あり人妻あり、後家あり、少女あり、いやはやありとあらゆる種類の女が含まれておりましたが、好事魔多しとかや、彼の経営する銀行の一つが失敗したことからケチがつき始め、流石の彼の財産も数ヵ月の間に雲散霧消してしまいました。こうなるといずこも同じこと、金の切れ目が縁の切れ目で、彼の周囲にはもはや女性は寄りつかなくなってしまったのです。そして遂にペロロンは債鬼に追われる苦しさから、かけなしの金を持って海外逃亡を企て港にやって来ました。港には大船小船がいっぱいに浮んでいました。彼はその数多くの船を見て彼が接して来た多勢の女の上に思いをはせました。と、『旦那さま』という声、見れば相手にした何百人かの一人の古後家でした。『お忘れですか』といわれたペロロン、『おおそうだ。オレは古貨物船に乗るテがあったわい』

ダレスの恋人 キ印五十婆さん

○…スットン狂も度を越すと、松沢病院行きということになるのが相場だが『あいにく満員でして…』と、入院出来ないマルキの年増が銀座にいる。通称イブゼント・メリー嬢という五十の婆さん。別に狂暴性でもなく、もっぱらエロ気狂いの種族だから、歓迎はされないまでも敬遠もされていない。—あたしゃ、ダレスさん（米国務長官）の恋人だよ—といいふらしているが、この婆さん、ついこの間、丸ノ内署に現われて『天皇陛下から土地を払下げてもらったんでね、家を新築してダレスさんを招待したいんだがね、警察でも一はだぬいでくれませんかね』と真面目くさって一席ぶった

○…婆さんの素性を知っている受付のお巡りさん、適当にあしらって追いかえしたが、真白なネルの洋服に、肩のあたりまでお白粉をつけ、髪を金メッキのクサリで束ねてシャナリシャナリと色目を使う。鳩ノ街に近い寺島のバタヤ部落に住んでいるが、表看板は、帝国ホテルを根城の外人相手のモグリマッサージと称している。モグリマッサージがどこをマッサージするかはきかなかったが、とにかく新聞でダレスさんの写真を見ると、ノコノコ銀座へ出て来るので、別名をマダム・ダレスとも呼んでいるそうだ。

婦人トイレに怪光！

○…プンプンといえばいささかクサイが、ちょいと科学的なお話がある。銀座八丁十二ヵ所の共同便所で、落書や、のぞき穴のない便所を探すのは苦労するが、その苦労する便所で起きた話だから面白い。あるご婦人が用をたしていると、ピカリ！と足許が光った。その焦点が、どこを照したかはご想像にまかすが、とにかく『キャーッ！』と悲鳴をあげたご婦人は、付近の交番へ飛び込んだ。『あのお便所で妖しい光が…』とガタガタブルブルふるえている。お巡りさんが、その妖しい光の正体をつかむために、乗り込んだことはいうまでもない。

○…『トントン』と、妖しい光を発した扉を叩いたが応答はない。しかし、鍵はかかっている。『果してふみ込んだものかどうか…』お巡りさんは紳士である。そこで二の足をふんだ。仕方なく、『では反対側からちょいと偵察を…』と小さな窓から中をのぞけば、何と若い男が、金かくしの隅に小さくなってうずくまっていた。『コラ！』大カツ一声、若い男をつまみ上げた。ツマミ出された男を見れば、右手に竹棒をぶら下げている。その棒の先には、小さな鏡がとりつけられてあった。何と潜水艦の潜望鏡を応用したオネスト・ジョン顔負けの新兵器満望鏡だったのである。『不届千万な奴！』とありったけの油をしぼられたが、『俺も、何と運の悪い男だろう、あの時、雲間から太陽が出てさえくれなかったら…太陽に反射したのが運のつきでした…』と、うらめしそうに空を眺めていたそうだ。

銀座女給のプライド

…ヘパチン！　パチンと空手チョップ。怒ったのは彼氏。『それではアナタ約束が違う』と車中の桃色騒動にあわてたタクシーの運ちゃん『車がこわれます、静かに乗っていて下さい』と、丸ノ内署に急報に及んだ。さて事情をきいてみれば…。

○…彼氏『私は、ラストのグッド・ナイト・スウィート・ハートの甘いメロディを彼女と踊りながらそっと二千円を渡しました。二千円を受取ったからには"万事OK"と解釈するのはアッタリ前でしょう』彼女『あの二千円はチップとして貰ったもんです。時間外にもおつき合いしたんだから、割増しを請求したいくらいのもんです。でも、お客さんだと思ったから、いやな顔もしなかったのに…。二千円でへんなところまで手をのばされたんじゃあ…あたしこれでも銀座の女よ！』

係官『二千円で日本の女性を思うようになさろうというのは、場末ならいざ知らず、ちょいとお値段が安すぎますね』という昭和の大岡裁きでこの一幕はチョンと相成った。さしあたり『現金に手を出すナ』の日本版というところ。

三原橋かいわい

100万円の婦人帽

お高い買ものいろいろ

【写真は婦人帽のいろいろ】

モダン歳人記　馬琴の性白書

嘉永五年十一月六日、江戸末期の戯作者滝沢馬琴が八十一才で没した。彼は『椿説弓張月』『南総里見八犬伝』『近世美少年録』等の小説のほかに随筆をよくし、武士道や儒教の高揚を図った。

馬琴は一般に道徳堅固な君子人と見られていたが、実際は息子の嫁のお路と通じていたようだ。目を酷使した彼は、晩年失明するに至ったが、お路は彼の為に口述筆記をして著作を助けた。彼は三つ年上の百鳴り婆アといわれた焼餅やきのお百にいびられつづけた。お百が天保十二年に七十八で死んだので、馬琴は四十八年振りで静かな生活を送る事ができたが、その頃の彼の日記はお路が代筆しており、これには三十を半ば過ぎたお路と七十を過ぎた馬琴の性生活が隠語をもってかなり露骨に記されている。例えば『易不走』『経不已』等というのがある。易は陽経は案、已は起きるの起の替字である。彼はキンセイの所謂ペッティングも縦横無尽に実践した。中国の軟文学に造詣の深い彼は、回春のためお路の排泄したものさえ利用していたらしい。（鮭）

あすの運勢 ＝十一月六日＝ 高島象山

▲一月生—初め順調の気構えあるも中途物の乱れを生じ失敗に終る
▲二月生—好転躍進の義ありて思う事叶い商売繁昌あり就職転業吉
▲三月生—大欲は無欲に似たりで経済的失敗あり内外不和口舌あり
▲四月生—闘情より事を乱し忌憚より失態を生じ易い慎重にすべし
▲五月生—困難も去り苦労も消え愉快に進退し利達栄昌あり移転吉
▲六月生—上下波動起り易く善悪の見分けもつかず不結果の事多し
▲七月生—険悪なる空気と困難なる事態に遭遇し易い控え目によし
▲八月生—気運ゆたかに物事昇進し多幸なり社交有利外交人気あり
▲九月生—世のため人のため困難起る世話事は迷惑あり異動変化凶
▲十月生—心迷うて物に疑心を起し失敗あり旧場を堅く守るによし
▲十一月生—何事も相互扶助の精神を以て相寄り相助け栄達有なり
▲十二月生—自己を過信し放慢に流れ失敗あり或は身内に心配あり

東海毒婦伝 青とかげ（120）

野沢純　土端一美画

ずかに動いた。

そこからやがて、静かに降り立ったのは、おりうである。

駒形堂の大道易者に、占いを立てて貰ったのが動機で、あれから間もなく、東海道を目ざしたらしい。

三島にいる、乳母のもとをはるばると、たずねがてらに、早瀬の行方も探したいという、娘ごころの旅だった。

どこかで藪うぐいすが鳴いていた。

山ざくらは、すでに散ったが、崖みちに白く咲いているのは、山百合であろう。

取りたくも、とうてい手もとどかないところに、白々と清らかに咲いているのである。

二子山が、近く大きくそびえている。水戸で眺めた筑波山とは又別だった。しばらくは、あたりの景色に、うっとり見とれた。

その間、雲助どうしは、本街道からわずかにそれた裏山道の草間に立って、千仭の谷を見おろしながら、連れの長小便をしている。

『相棒、いい天気だなァ。この分じゃァ、当分晴れが続くぜ』

腰を二、三度下品に振って、ついでに一人が、また手鼻をかんだ。

草間にどっかとあぐらをかいて、まず一服。鉈豆キセルをくわえてホクの火を手のひらにころがしながら、たて続けに二、三服。あとはひそひそ、互いに何やら小声で頻りに話し合っている。

時折りチラと、娘の方へ目をくばる。

いつかな腰を上げそうもない。

『もし、駕籠屋さん、休んだらそろそろ行って下さいましな』

銀鈴を振るにも似た声へ、『わかってるてえこと。三島は下りだ。日の暮れ前には行き着かァな！』

言葉つきがガラリと変った。おりうは思わずハッとした。

箱根馬子唄（一）

〽箱根八里は馬でも越すが越すに越されぬ大井川—宿を出る時、行列の先に立つのが長持馬子唄。先馬（さきうま）に続いて駕籠が出て行く。雲助が、左右の肩を替える時、一と息入れて口に出るのが箱根馬子唄。

〽箱根峠の駕籠かきは八里の道を四里で行く—などといわれているのは、それほど足が早くて慣れている証拠。その後も、湯本に四百六十人、宮の下に三百二十人から控えているという。みな偶数なのが面白い。駕籠は一人では担げない。相棒に事故がおこれば、部屋から助手（すけて）が出て替るのだ。

〽箱根御番所と新井がなけりゃ連れて逃げたや上方へ—と唄の文句にある通り、天下の険といわれた此処には、世にも聞えたお関所があって、江戸に幕府がおかれて以来、東海道を上り下りの諸大名や家族をはじめ、武器の通過から、百姓町人の往来にいたるまで、調べ方も、ことのほか厳しい。

今は小田原、大久保藩の管理取締り。

—その峠路の昼さがり。

登りにかかって一挺の山駕籠が、道の端におろされた。

『相棒—この辺で一服するとしようじゃねえか』

『そうだなァ、朝の八ツ刻から、だいぶ登りにかかったぜ』

息杖をおいて、『しいっ！』と手鼻をかみながら、

『ええお客さんえ—お娘さんえ。もし、お嬢さんえ。この辺は大層景色のいい処だ。降りてちっと見物なすっちゃァどうですね？朝からずっと乗りずめの、その上揺られ通しじゃァ大方疲れたろう。乗ってる方でも楽じゃァねえ』

そういわれて、駕籠の垂れがわ

1枚当ればお2人で・一切無料　1500名様をご招待

★団体アベック遊覧バス行楽　箱根一泊旅・抽選券　★愛読者サービス・内外タイムス社

氏名　住所

【送り先】中央区銀座3の5　内外タイムス社（特別旅行係）と朱書、開封郵送の事（1人何枚でも可）月3回抽選、旅行日の10日前に当選者氏名発表

東京漫歩

新橋・女神の像 二〇世紀の女神

流行のサービス喫茶はもう古いとばかり、新興喫茶サロンなるものが現われた。普通の喫茶店並みの料金で、美しいパートナーを選んで踊れるシステムが人気を呼んでいる。新橋烏森の駅前の『女神の像』というのがそれ。珈琲60円、ビール（小）一〇〇円でサービス料なし。集まった女像の美しさは、絶対界隈ピカ一を誇る。まさに二〇世紀の女神の群像である。午後四時から夜十一時迄営業している。

一流洋服を五割安 キップのいい東洋堂

めっきり寒くなった。特に朝晩のそれは、冬近しをひしひしと思わせる。外出や運動にも衣替えの季節だが、フトコロ淋しい秋だといって頑張っていても向きも多いなる程、ちょっと注文で背広一着作れば一ヵ月の給料が吹っ飛ぶこの頃では、洋服新調はついあと回しとなる易い。しかし、神田に『東洋堂』がある以上、秋は秋らしく新調の背広で心も軽く街を歩くべきである。全商品五割引、品種とサイズの豊富さで東京でも有名な『東洋堂』は神田小川町と駿河台の中間にある。キップのいい店で月賦の相談相手にもなってくれるとか。創業三十九年、仕立のよさは注文品以上との評判だ。

日本橋を代表する上品な喫茶店 スリー・ナイン

日本橋八重洲口第二鉄鋼ビル前に『スリー・ナイン』という喫茶店がある。東京で一番高級、かつ最も知的なこの界隈にピタリとしたいうなれば"ノーブル"な店なのだ。だから、銀座のアベックもたそがれどきともなれば、日本橋へ移動して、スリー・ナインで一杯の珈琲に体を休めるのが常識となっている。

十数名の女性は、スッキリとした身だしなみに、どこか知的な雰囲気を醸してサービスもあか抜けしている。勿論設備の良さは第一級。柔かいクッションから、壁面の美、一脚のスタンドにしても日本橋にふさわしい上品さ。電話（27）八五三九番。

美しいママさんのサービス 喫茶とバー ボンドール

昼は喫茶店、夜はバーとして、中央線族に人気のあるのが阿佐ケ谷駅北口プール通りの『ボンドール』だ。珈琲、ジュースなど味がいい上に、上品で知的な雰囲気、美しいママさんの暖かいサービスなど、この界隈随一の喫茶店だが、特にモーニングサービスにはに珈琲にトーストとタバコがつくから、朝寝坊の独身サラリーマンにはなくてはならぬ店ともなっている。

夜のバーの人気は腕のいいバーテンのカクテルにある。一杯の酒に心を軽くして、山ノ手令嬢ばかり集めたウエイトレスのセンスのいいサービスに憩えば、銀座でも味わえぬ愉しさもあろう。銀座から新宿へ流れた左党が、最後に落ちつく安息所として、近頃とみに人気を高めたバーである。

トンチ教室と渋谷くじらや

ラジオで人気のある『トンチ教室』の面々、石黒敬七旦那や長崎抜天さん、三味線豊吉さんなどが教室を抜け出してはサボッている渋谷のタマリ。それが最近珍味で名をあげた栄通り大映近くの『くじらや』だ。長崎鯨や白長須を服部流割烹の家元服部道政氏が精魂こめて調理したものだというから、うまいのも道理。カラ揚一枚食べてみればわかるが牛や豚と比べて少しも遜色のない逸品だ。さすがに食通で鳴る石黒旦那の発見だけあると、トンチの面々以後暇さえあれば"くじらや"へかけつける。どうやらトンチのわく泉はこの栄養にあるらしい。

池袋唯一の本格バー・枯葉

池袋西口、住友銀行先を右に入ったあけぼの小路に『枯葉』というバーがある。フランス好みの店らしい。『枯葉』という名前からして、何か人生の哀歓を知りつくした通人の、そんな落つきを感じさせるではないか。軒灯から、内部の渋み、カウンターもボックスもクラシックなもので統一してあるがしかし、決して取りつきにくい感じはなく、むしろ、その雰囲気は親しみ易い。

高級バーということは、カウンターの奥にズラリと並んだ豊富な外国酒をみても解るが、飲んでみて驚くのはその値段である。トリスバー級でうまいハイボールが飲めるのはいい。ビールは一〇〇円女性は十人程いる。バーテンの腕は一流なのだろう。マンハッタン

オムニバス・ルポ

銀座夜妖香

[illegible]二丁銀座の柳、その柳の葉がペーブメントに舞い始め、きょうは早くも十一月一週の終[illegible]ヵ月もたてば空ッ風が吹き、慌しい師走がやってくるのに銀座人は無頓着。いやそんな[illegible]してか、Yラインは泳ぎ、靴は鳴り、表八丁、東西両八丁併せて二十四丁は人波で賑わ[illegible]これはそんな銀座にとらえた新兵器満望鏡や船来デバカメ事件、さては旅情女の流行語[illegible]など題して『銀座夜妖香』――

女風呂、カメラの奇襲　平謝りの舶来デバ亀

○…銀座にはいま六軒の銭湯がある。その一軒から、ごく最近百十番がかかって来た。『たいへんです。外人兵が女湯に飛込んで来てパチリパチリと写真を撮っています』というご注進なのである。『スワ一大事！　舶来デバカメ！』と、所轄築地署のお巡りさんが、オットリ警棒でかけつけた。成程、いささかごメイテイの外人が、てんやわんやの女湯の中に、カメラを向けてニターリニタリとご満悦。キモをつぶした娘さんなど、湯槽へ飛込もうと思ってもすでに満員。至し方なくあっちへウロウロ、こっちへウロウロ。[illegible]

『シーカタありまシェン。でーも私のコイビートの写真も写っています。それは返してクダーサイ』『然らば現像した上で、関係のないものはお返ししましょう』てなことで、喜んだ（きっと喜んだと思うのだが）のは鑑識係のお巡りさん。こいつはとんだタナボタと欣喜雀躍暗室へ――。胸はずませて現象に及んだ。一分、二分、三分…サッパリ何も出て来ない。まさか、出て来る女はみんな洋服姿。まさか、裸の女を現象したら、洋服姿で出て来たなんて、そんな馬鹿気た話はないと、首をひねってよく調べたら、湯気でレンズが曇ってしまい、湯浴みの裸婦は一枚も写っていなかったのだ。せめてネガでも拝見しようと、待ちかまえていた外人と係官、真っ白なフィルムを電灯にかざしながら『ときさわがせな』と、期待されて見送りの三振――。

土曜日の11時　淑女の集まる時間

[illegible]いわゆる淑女の姿が現わ[illegible]土曜日の午前十一時だ[illegible]場所はおしゃれ横丁とか[illegible]と呼ばれるみゆき通[illegible]のお嬢さんが、半どんで[illegible]を待つひとときを、おし[illegible]つぶすのだ。銀座の娘[illegible]純粋の銀座娘と、たまの[illegible]いと出て来た銀座娘を見分ける法は、ハイヒールのカカトを見ればいいんだそうだ。今年の流行は何とかいうカカトの細いのが流行で、銀座娘は三杯のゼンザイを二杯にけずり、月給袋をはたいては、このハイヒールを買おうと、四苦八苦しているそうだ。銀座娘はいつも流行と追いかけっこをしている暇人かも知れない。

30Wの流行語

○…『あんたこの間つれてたスピッツ、ちょいいけるワネ……』『あら有難う……』『前のはどうしたの？』『あんまりほえたりかみついたりするんで、ポイしちゃったの』『満更悪いタネでもなかったんでしょ？』『そうでもないワ、ゼイタクなのよ。それに比べりゃ、今度のなんか、お金もからないし毛並はいいし、それに頼んだお使いもちゃんとしてくれるし…』『へえ…』『それにね、手をにぎってやったり軽くほおずり[illegible]

だ。スピッツというのは、三十W族ご愛用の流行語なのだ。然らばツバメに立候補―とばかり『お嬢さん、私はどうかね』と身をのり[illegible]

風流世界譚 ……（アルゼンチン）……

ブエノスアイレスに住むペロロンという伊達男は女千人斬りを豪語しておりましたが何分金持ちの上に四十の男盛りときていますので、五十人百人とその数が増えて行きました。そのなかには女優あり人妻あり、後家あり、少女あり、いやはやありとあらゆる種類の女が含まれておりましたが、好事魔多しとかや、彼の経営する銀行の一つが失敗したことからケチがつき始め、流石の彼の財産も数ヵ月の間に雲散霧消してしまいました。こうなるといずこも同じこと、金の切れ目が縁の切れ目で、彼の周囲にはもはや女性は寄りつかなくなってしまったのです。そして遂にペロロンは債鬼に追われる苦しさから、かけなしの金を持って海外逃亡を企て港にやって来ました。港には大船小船がいっぱいに浮んでいました。彼はその数多くの船を見て彼が接して来た多勢の女の上に思いをはせました。と、『旦那さま』という声、見れば相手にした何百人かの一人の古後家でした。『お忘れですか』といわれたペロロン、『おおそうだ。オレは古貨物船に乗るテがあったわい』

ダレスの恋人　キ印五十婆さん

○…スットン狂も度を越すと、松沢病院行きということになるの[illegible]

白昼の数寄屋橋　人妻暴行未遂事件

[illegible]と、公園のベンチに腰を下した。付近には人影はなかったが、先程から、ムシロの上で昼寝していたバタヤのハチ公は、薄目を開けて、B子さんの足の下から富士山でも見上げるような熱っぽい眼ざし――B子さんが腰を上げて立ち上ろうとしたとき、たまりかねたかハチ公は、B子さんに飛びついていった。口をふさがれたB子さんは、声も出なかった。この現場を見つけた通行人が『こら！　いたずらをするんではない！』と怒鳴りつけた。しかしハチ公は、この忠告者に澄まして答えた『何いってやがんでえ、俺らのカカアとふざけるのに、どこが悪い！』通行人は『だったら無理はない』とその場を立ち去った。ハチ公は『シメタ！』とばかりB子さんを自分の住家へ引きずり込んだ。住家といっても、ムシロから三間と離れていない、交番の裏の、トタンとムシロの小さな家だ。ハチは、交番の巡査が立っていた。しかし、全く危機一発という瞬間だった。もし巡査が小屋の様子が変だと気づかなかったら、B子さんは、ハチ公の餌食になっていたかも知れない。ハチ公は築地署のブタ箱で小さくなって『交番の裏なら…と思ったが、やっぱり悪いことは出来ねえもんだ――』と頭をかいていた。

100万円の婦人帽　お高い買ものいろいろ

【写真は婦人帽のいろいろ】

[illegible]円くらいの真珠は毎日売れていくそうだ…。月給手取り二万円族には全く背のびしても届かないお話[illegible]Tカバン店=十五万円のワニ皮ボストンバッグ。『そのうち売れますよ』と、店のお方はオーヨーに[illegible]

銀座女給のプライド

○…[illegible]

三原橋かいわい

婦人トイレに怪光！

○…プンプンといえばいクサイが、ちょいと科学的[illegible]がある。銀座八丁十二ヵ所[illegible]便所で、落書や、のぞき[illegible]便所を探すのは苦労する[illegible]苦労する便所で起きた話[illegible]白い。あるご婦人が用を[illegible]ると、ピカリ！と足許が[illegible]その焦点が、どこを照し[illegible]想像にまかすが、とにかく[illegible]ーッ！』と悲鳴をあげな[illegible]は、付近の交番へ飛び込[illegible]『あのお便所で妖しい光[illegible]ガタガタブルブルふるえて[illegible]お巡りさんが、その妖し[illegible]

モダン歳人記

馬琴の性白書

あすの運勢

東海毒婦伝

青とかげ　野沢純　土端一美画　(120)

箱根馬子唄（一）

〽箱根八里は馬でも越すに越されぬ大井川…[illegible]

東京漫歩

日本橋を代表する上品な喫茶店　スリー・ナイン

美しいママさんのサービス　バー・ボンドール

トンチ教室と渋谷くじらや

池袋唯一の本格バー・枯葉

一流洋服を五割安　キップのいい東洋堂

新橋・女神の像　一〇世紀の女神

続 情炎の千代田城 (290)

岩崎栄　寺本忠雄画

水ぬるむ（一）

浪人が六人、ひどく荒れた部屋で、提灯を張ったり、それに紋どころを描いたり、字を書いたり、紙袋貼りしていたり、無事泰平で就職難で、食えぬから手内職をしているのだと、それは世間をごまかす方便で、金はみんな持っている。どこから後援されているのか、いつでも酒を飲んでいる。白丁の二、三本は勝手の板の間に並べているし、土間の隅には、キハダかコハダか、魚くさい竹の皮が常に異臭を放っている。

『さァて、玄の字は遅いな。また途中で飲んだかな』

『飲んで、うかれて、浜町河岸で夜タカを抱いとるな』

『まだ七ツさがりだ。夜タカの出る時刻ではないぞ』

『およそタカに三種あり、昇タカ、宵タカ、夜タカ――とな。学に浅いやつら、よく肝に銘じて――』

『ばかな。見タカ、聞いタカ、遭ったタカ、取ったタカ――タカにはおよそ七種あり、浅学菲才のやつら、キン玉に銘じて忘れるな』

『ああ戻った。玄テキの御帰館なるぞ』

『こりゃ、ものども！』

亀岡玄十郎、なるほど、タカは買ったか振られたか知らぬが、すでにして虹のような酒気だ。

どっかと、大あぐらで、

『ものども酒を持てっ』

『自分で持て。持って来いツラでもねえだ』

『よし、自分で持とう』

白丁を勝手から――いきなりのラッパでゴクン、ゴクンとやって、

『さてものども！』

『まだいってるぜ』

『ぶつけたの、新井白石』

『なに？』

提灯をおっぽり出して、紙袋を投げ出して、一座六人、血相を変えた。

『拙者、最近いささか、湯島天神境内、伊豆作の女中に惚れられての』

『ちえっ』

『なあんだ、夜タカの毒が頭に来やがって』

玄十郎は再び白丁を傾け、プーッと酒気を吐いて、

『その女の曰く……』

『おまえのワキガがたまらないねえとノタマワクだろう』

『うん、のたまわく、いま新井白石様と、町娘のイキのよさそうなのと、奥二階でおたのしみなんですよ。だからさ、あたいの持場なんだから、またあとでね……と、拙者の耳タブをちゅっと……その』

『わかった。ものども続けえっ』

提灯貼りの黒沢甚内が、おっ取り刀で土間へ飛んだ。

『ほんとか、玄十！』

あとの五人もそれぞれ、大刀をわし掴みに玄十郎を取り囲んだ。

『ごくろうに、誰がわざわざ立ち戻ろうぞ。女をくわえ込んでウジャジャケて居るナマ学者の三匹や五匹、拙者一人でひねり潰すにいとやすけれどだ』

『そうか。よし行こう』

みんな駈け出してしまった。一ばんあとから玄十郎も――。

新井白石は谷中の寺まいりからの帰途、本郷のとある辻でぱったり、町の年増風をしているお静に会ったのだ。

『いかがいたした』

『はい。ちょうどよろしうございました。ちょいとお耳に入れたいことがございまして』

お静はこのごろ、木人のいいつけで、荻原重秀のゆくえを探索し続けているのだった。

今週の顔　森繁久弥

今年の主演賞は確実？

『人をそらさぬ機知と気っぷ』

『渡り鳥いつ帰る』で咲かせた花を『夫婦善哉』で実らせ、ついに『人生とんぼ返り』では立派な売り物の果実にしたというのが今年の彼の収穫だった。これくらい一作一作に観客を唸らせ、泣かせた俳優はあまり見たことがない。おそらく、というより確実に今年の主演演技賞は森繁久弥のものであろう。…というのが最近のプロデューサー協会で出た森繁論だった。それほど彼の演技は玄人筋でも好評なのである。もちろんこれには久松静児、豊田四郎、マキノ雅弘と三監督の好指導によるところも多分にあるが、彼としてもこの絶讃する世論に対して『僕一人ではとてもできませんよ。これもみんな監督の諸先生と、共演してくれた人々のおかげなんですから』といつもの軽口をさけて真摯に語っている。

大体彼という男はいつも対談する相手の気持をはかり、気をつかい、その場を白けさせないように心掛けている男なのである。その彼にしてマトモなセリフをいわせる現在の心境はおそらく『してやったり』という満足感と安心感ではなかろうか？だからこそ彼にしてはあまりにも定石通りの言葉が飛び出したというわけなのである。

山口淑子と共演した時の話だ。テストも三、四回済んだが、スタッフも出演者も一向気がのらず少々だれ気味のセットだった。演出の山本嘉次郎監督もこれにはいささか参って『もう一度テスト』という声も力が入っていなかった。すると森繁がここでセリフを全部中国語で演ったから、あっけにとられたのはスタッフ一同なのである。相手役の山口淑子も一度はビックリしたのだろう。ポカンとあけた口に例の大きな眼をパチクリさせていたが、勿論中国語ならお手のものだ。ついにこのシーンを中国語で二人が演ってのけたのである。最初はポカッとしていたスタッフ連中もこの珍芝居を見ては、眠けも何も一度にすっ飛んでしまったのも無理はない。ゲラゲラが哄笑になり爆笑になった時はさっきのたるんだ空気はもうセットのどこにも見られなかった。こんな機知に富んだセンスも持合せているのが彼なのである。

従って話がはずめば徹夜でしゃべりまくるのもあえて辞さないし、長年連れ添って苦労させた女房にせめてぜい沢の真似ごとでもさせてやりたいと、千歳船橋へ新築した家に全部新品の調度品を持ち込んだのも彼の心意気なのである。だから山田五十鈴でさえ『仕事をしている時は別にして、あのくらい人づき合いが良くてサッパリした人は無いですよ。江戸ッ子だと思ったら兵庫生れなの。それにしても良い人ね』といっているし、その他スタジオの裏方を始め宣伝部の隅々までいたって評判がよろしい。

しかしただ一つこれだけの彼が何を目的で何のために演っているのか判らないという評判なのが『アプハチ座』の芝居だ。彼のいう軽演劇とはあのようなものではない筈だ。人気におぼれたアプハチ族同人が楽しむためだけのものならともかく、金を取って見せる以上は同人代表格の彼がもっと考えなければならない宿題だろうというのだ。そういえばその第三回公演が近づきつつある昨今だ。ここらで一番考えねばなるまい。（F）

各社新作ブームで かけもちの売れっ子スター

最高は四本の千代之介　三本の錦之助や南田洋子

正月映画はあるし、新作二本立興行も実現されそうな昨今、各撮影所はそれこそてんやわんやの状態だが、それにともなって大映が第二撮影所を新設する計画があったり、日活が目下一挙十本の作品を同時に製作しはじめるなどあって、来年度は春早々から日本映画は洪水のようにドッと押し出されることが予想されている。おかげで各社の売れっ子スターは二本、三本の掛け持ち出演で追いまくられているが、さてその状況を覗いてみると――

東千代之介　南田洋子　三国連太郎　北原三枝　池部良　有馬稲子

目下のところ最高の掛け持ちスターは四本を演っている東千代之介で、東映のオールスター映画『赤穂浪士』（演出松田定次）の浅野内匠頭をはじめ『忍術左源太』（演出深田金之助）『ふり袖小天狗』（演出内出好吉）『羅城門の妖鬼』（演出深田金之助）と持っている。これらの作品はいずれも京都で製作されているから、連日飛行機で東京往復するなどという苦労はないが、それぞれ脚本が違うと共に役柄や扮装がまるで異るから大変だ。午前中は『ふり袖…』で美空ひばりとラヴ・シーンを演ったと思えば午後は『赤穂浪士』で『待ちかねたぞ、源吾…』などと切腹シーンを撮るという案配で、つい先日もひばりとのぬれ場に殿様調が出て内出監督以下相手役のひばりまで吹き出してしまったそうだ。

千代之介が出ればもちろん中村錦之助が登場するのが常識だ。彼も三本の作品を持っている『赤穂浪士』『あばれ振袖』（演出荻原遼）『羅城門の妖鬼』である。二人とも主演映画の作品に〝ふり袖〟という題名をつけたり、『赤穂浪士』と『羅城門の…』で同じ程度の役をつけたりと東映主脳部も大変だが、これでギャラになると錦之助が二百万円に対して千代之介が五十万円ぐらいの差が出ている。

日活に移籍したり、日本舞踊の市山流の名取りになったりと、このところすっかり張り切っている南田洋子が、やはり三本の口で『母なき子』（演出堀池清）『顔役』（演出吉川完巳）の主演ものに『裏街のお転婆娘』（演出井上梅次）に付合っているが『アタシは勉強中だから、掛け持ちでも何でも平っちゃらよ』と元気一杯だ。その上彼女は近く名取りの披露公演があるので、都内ロケやらセットが終った真夜中でも家へ帰れば踊りのオサライを欠かさないという。そんなに張り切って体に障らなければいいがとお付きの女の子が心配しているほどである。

〝ガソリン代がたまらん〟　三国連太郎の荒行

病気といえば昨年は掛け持ちスターのトップで大活躍だった北原三枝が最近は病後でおとなしい『幼きものは訴える』（演出春原政久）『裏街のお転婆娘』の二本に二、三カットずつ特別出演する程度で近くクランク・インする川島雄三監督の『風船』を待っているというところだ。また三国連太郎が相変らずの活躍で『続警察日記』（演出久松静児）『ビルマの竪琴』（演出市川崑）に『霧の中の男』（演出野口博志）へも出演して、目下伊豆方面でロケ中。『ビルマの……』から自家用車で飛んで帰ると、その足ですぐセットに入るような荒行もやっている。会社ではそのガソリン代が大変だろうというので『掛け持ち特別交通費』を出そうかという冗談もあったそうである。その他有馬稲子がにんじんくらぶの自主作品『胸より胸に』（演出家城巳代治）と松竹の『泉』（演出小林正樹）にはさまれて軽井沢と東京間を四往復したが、結局撮影する時間より汽車に乗っている間と、お天気待ちの時間の方が長かったという悲喜劇もあった。

また池部良も松竹で小津安二郎監督の『早春』と東宝の『乱菊物語』（演出谷口千吉）に出演し、その合間をぬっては中国との合作映画のプロデュースをやろうと『佳人長恨』に出演中の李麗華と連絡したりして、製作者と俳優を兼ねたきわどい掛け持ちで飛び回っている。こういった具合の映画界だけに二本組のスターはそれこそ軒並みで大木実が『胸より胸に』『角帽三羽烏』（演出野村芳太郎）小林トシ子は『角帽三羽烏』『野菊の如き君なりき』（演出木下恵介）高橋貞二『早春』『角帽三羽烏』三橋達也『ビルマの竪琴』『顔役』などと数えたてればきりがない。その点大映は根上淳、菅原謙二、若尾文子、山本富士子などスターは一本ずつで、いまのところは掛け持ち出演はないようである。

芝居みたまま

セリフの早口が損

『久しぶりの金井修一座（公園劇場）』

▽…かれこれ二年ぶりで浅草に戻って来た一座のお目見得狂言は、島栄吉作・演出の『唄入り観音経』五場。江戸の怪盗木鼠吉五郎（金井）をめぐってのお話は、余りにも知られ過ぎているだけに金井も格別にこれといった新味も出せないが、逆にそれだけに楽にノビノビと芝居をしている感が強く、やはりその辺の女剣劇には見られない大きさがある。例によって台詞を口の中でボソボソといってしまうところのある欠点はここでもかなり損をしているようだ。これは他のワキ役陣にもいえることで、一体に早口過ぎるのがわずらわしい。

▽…見せ場は吉五郎の新居で御用提灯に追われる吉五郎が恋女房お米（花川水栄子）と別れるところ。それに罪を悔いて僧門に入った吉五郎改め才念が、百姓喜兵衛（大野栄、好演）宅でのお米との再会、悪玉弥五郎（阪東扇太郎）一派との決戦なども大向うで受けている。ただこの場の装置は家の外だか内だかわからぬヒドいもの。いくら浅草でもこれはヒド過ぎる。助演陣では川上好子（からくりお蝶）藤村正夫（目明し勘次）などが目立った。ほかに金井修構成・解説の『殺陣・田村』林千代・大友柳之介の『緋鹿子草紙』関西新派誠実座の『母なればこそ』などがある。十日まで。（橘）

『唄入り観音経』の金井修

スターのいる町

麻布界隈（その一）

隣同士で庭も共有　仲のよい新劇の青山、千田両御大

【六】本木は俳優座族の町だといっても大世帯の撮影所ほどに派手な存在ではない。昨年四月、八千万円の工費をかけた俳優座劇場が建ったときには、随分不便なところだと評判が悪かった。しかし以前は運転の間隔長い、その上にノロノロと地面を這って歩く時代遅れの乗モノ都電が二路線だけしかなかったものが、最近ではバスが三路線もふえて、だいぶ便利にはなって来た。俳優座の千田是也、岸輝子夫妻、青山杉作、東山千栄子、大塚道子、武内亨といった人々、少しはなれて、田村秋子、田島義文、山形勲などが住んでいる新劇役者の多い町だがいまをときめく中村時蔵、錦之助、賀津雄親子の家もある。ちょうど劇場から電車通りを突っ切った正面に喫茶店兼レストランLがあるのだが、このわき路地を入ったところの左側の歌舞伎俳優らしからぬ赤い屋根、白い壁の家がそうだ。ときおり女学生が数人、サイン・ブック片手に犬にほえられ、ウロウロしながら行きつもどりつの光景もある。

中村錦之助　青山杉作　千田是也　武内亨

【青】山、千田邸は何しろ本当の隣り同士で所も同じ飯倉片町六番地なら、庭なんていう手のかかるものも、どうせ互いに忙しいんだし人手を煩わせて手入れなどさせるような隠居趣味も持ち合せていないので、これはひとつ共有で行こうやと、ネコの額よりはいささか広い七坪余りを両家で互いに楽しんでいる。電話のベルなども心得ているご両人だが、さすがに自分のところにかかって来る用事で相手を呼立てるのは迷惑だからと二本ずつ引いた。そこまではよかったが、番号がたった一番違いだったのが禍のもとで、そそっかしい人は絶えず間違えてお隣りさんを呼び出す始末らしい。このあたり一帯は高峰秀子、松山善三邸のある永坂町と都電の通る飯倉の通りとにはさまれた窪地のため地価も割安で静かな住宅街ではあるが、煩わしいものの一つに一度この辺りに放歌高吟の蛮声がとどろいたことがある。酔っ払った若い弟子たちが千田、青山邸前でをやって、流石に家には入りかねたが、外をグルグル回りながら大騒動をやり、挙句に『青山、千田先生万歳！』を……翌日彼らが千田から小言を食らったことはいうまでもない。といっても大声でガミガミと怒鳴るような野蛮な彼ではない。たった一言『ボクの家は野中の一軒家と思ったのかね』といっただけだったそうだ。

【武】内亨という若い役者が材木町のアパートにいる。二月公演の『赤いカーディガン』では男の彼がその〝赤いカーディガン〟の赤毛婦人になり、新劇では珍しい女形となった。七月の『どれい狩り』では狂人の役で、とにかく異常な役にばかり回る。その女形が近所の評判になった。この夏のことだ。ある朝近火があった。『火事だッ』という声がした。どの辺だかたしかめもせず、あわてた彼はパンツ一枚で外に飛び出したところ、玄関の前には近所の商店の内儀さん、娘たちがワイワイガヤガヤ。彼を見るなり、一人が『あらッ、オヤマが飛び出したわよッ』とはやしたものだ。続いてプーッ、クスクスッとやられてはもうたまらない。彼はそそくさと家ん中へ逃げ込んだ。火事は二、三町はなれたボヤだったそうだ。【次回は来週土曜日、麻布界隈その二】

名選 都々逸　石井きんざ選

月が雲間にかくれりゃ若い　二人も暗に消えて行く　高輪・五十嵐源太郎

酔った風情に浮気を出せば　髪がうなずく四畳半　墨田・良坊

ダイヤ位いは鼻声出して　ねだりゃくれそな良い旦那　世田谷・梓永保治

喧嘩別れで出て行く人の　障子をピッシャリしめる音　熊谷・エンゼル

力づくではどうにもならぬ　真面目な女の心意気　よし町・小木美

◇

絞られてさんざ女にゃこりてるはすの　又も手を出す誰かさん　選者

おしゃべり

傷心の女王様へ

ご落胆は早すぎます。世に男性はあふれかえっておりますもの――。

―マリリン・モンロウ

今晩のラジオ

5日（土）

時	★NHK第1★ 590KC	★NHK第2★ ?0KC	★ラジオ東京★ 950KC	★日本文化★ 1130KC	★ニッポン★ 1310KC
6	00 子供のシンブン◇村の船着場 大阪放送劇団 / 40 スポーツだより	05 英語会話 松本亨 / 15 記者手帳から / 30 新内と端唄 浅井丸留子	10 東西こぼれ話 高野アナ / 15 コンサート 南十字星 / 25 ぴよぴよ大学 河井坊茶	00 劇『少年宮本武蔵』 / 10 劇『白蟻の巣』成瀬昌彦 東恵美子 山岡久乃他	00 音楽 セ・シ・ボン他 / 15 日本調ヒット曲集 / 30 LFミュージックホール
7	00 ニュース◇天気予報 / 30 女流作家二十の扉 平林たい子 佐多稲子他	00 映画音楽≪アル・ジョルソンの思い出≫清水光雄 / 30 青年学級の友へ 吉田昇	10 録音ニュース / 20 ホームソング 奈良光枝 / 30 どうしまショウ（小野田）	00 録音ニュース / 10 ベニー・グツドマン特集 / 30 アベツク歌合戦	00 ラジオ夕刊（耳の新聞） / 20 花のステージ 歌西久仁子 / 30 ❶歌謡浪曲❷落語 今輔
8	00 なつかしのメロデイ≪昭和篇≫安藤まり子他 / 30 とんち教室≪広島公会堂にて≫石黒敬七他	00 ニュース / 05 放送劇『安政奇聞まらそん侍』伊馬春部作 大谷友衛門 金子信雄 森雅之 芥川比呂志 賀原夏子他	00 コメデイ『花嫁募集中』森繁久弥 草笛光子他 / 30 浪曲≪次郎長伝≫荒神山第十二回 広沢虎造	00 素人ジヤズのど自慢 司会水の江滝子 小泉登他 / 30 ヒツト・パレード エンリケ・ホリン楽団他	00 フライング・メロデイ ゲスト高英男 / 30 雪村いづみショウ 演奏 池田操とリズム・キング
9	00 ニュース解説 藤瀬五郎 / 15 劇『おけらの歌』東野英治郎 大塚道子他 / 40 時の動き	30 ダンスアルバム 解説酒井和雄	00 歌謡曲 細川ちや子 高倉千代子 青木光一他 / 40 劇『雷電』滝口順平 佐野浅夫 湊俊一他	00 松竹新喜劇『泣き笑い芝居横丁』渋谷天外他 / 30 劇『この世の花』山岡久乃 真木恭介 津村悠子	00 劇『太郎行くところ』司葉子 大川太郎他 / 30 古今東西恋物語 筑紫まり 木村功他
10	15 今週のニュース特集 / 40 幸福を拾つた話≪新婚ホヤホヤの巻≫市村俊幸他	00 高等学校講座❶解析 佐藤忠❷英語 梶木隆一 / 45 気象通報	05 今日のニュース（朝日） / 15『子供は笑う』竹中郁他 / 30 マントヴァーニ楽団他	00 大学受験実力養成講座 英文法 野原三郎 / 30 国語（古文）高倉徳次郎	00 歌謡曲 林伊佐緒 津村謙 春日八郎他 / 35 スポーツ・カレンダー
11	00 きょうのニュース / 20『秋の声と香』曽宮一念作	00 家庭と学校『無口な子』辰巳敏夫他	10 音楽の星座『禿山の一夜』他 第一弦楽団	00 DXニュース 福士実 / 20 ポール・ウエストン楽団	00 唄ごよみ 豊竹山城少掾 / 15 週間ニュース解説

テレビ

★NHK★ ◆6・00 親子クイズ◆6・30 今晩はメイコです◆7・10 週間ニュース◆7・30 全国民謡舞踊大会◆7・50 歌劇『マンドリンを弾く男』芝祐久作曲◆9・25 第十一回日展中継

★NTV★ ◆6・00 劇『こども探偵局』◆6・15 手品教室◆6・30 素人のど競べ◆7・30 なんでもやりまショウ◆8・00 浪曲『阪神楽道中記』相模太郎◆9・00 ヴエニス映画祭特集

★KR★ ◆6・00 映画『シンフオニー・オブ・ザ・エア』◆6・35 サザエさん◆7・00 映画『ふろたき大将』石橋蓮 渡辺司他◆7・50 テレビ東京亭 円遊他◆9・10 劇『日真名氏』

はと笛

▽…日劇『秋のおどり』に出演中の雪村いづみはショウの合間を縫っての映画撮影やラジオの録音ですっかりノドを痛めてしまい、周囲のものから休み時間は〝絶対安静〟をいい渡されて楽屋でも寝たっきり

▽…ところが、そこは若くて元気な女の子のこと、辺りが静まるとノコノコ這い出して、境の板戸から隣の清水秀男や柳沢真一の楽屋へ侵入、お得意のトランプの手品などを鮮かにやって見せてはよろこんでいる。たまたまこっちの部屋へ人が来てビックリすると『シーッ、内緒よ。あたしは面会謝絶なんだ』はやっぱりトンコ。この分なら病気退散間違いなし。【写真は雪村いづみ】

これは安い！

千円でジョニーウォーカー三杯　新橋に現われた一流バー・三鳩

〝サンキュウ〟といっても英語のありがとうさんではない。『三鳩』と書く可愛い名前で。元はサンキュウ洋装店として紳士や淑女のアクセサリーや洋品で人気のあった店だといえば、オール新橋銀座マンだれでも知っているといえよう。場所は新橋地下鉄銀座口前、通称ブラ小路の角から二軒目だ。

その〝三鳩〟が、こんどスナック・バーとして生れ変って、ついこの間オープンした。センスのいい店で、モダーンな彩光の中に浮ぶは当代一流の某日本画家が健筆を振った三体の壁画、ボックスは柔かいビロード張りで、店内にほのぼのと明るい気分のあふれるバーである。この感覚のよさは、藤間流の名取りであるママさんの、すぐれた知性から来るものか。

勿論一流のバーだから、酒のうまみは第一級。若いがこの道十年の経験をみっちり積み上げたバーテンのM氏、それを援けるのは東京では唯一人といっていい美しい女性バーテンである。

カウンターの奥には、ジョニーウォーカーの赤黒、オールドパーやキングオブキングなどスコッチの高級品がズラリと並ぶが、サントリー、トリス、ニッカなどの国産品も沢山ある。一流バーでこうした安い酒を飲むのは通人のよく使う手だから、堂々とトリスハイボールと注文すればいい。ハイ50円ストレート40円、サントリー70円と値段は至極安い。

しかし、何といっても圧巻はジョニー・ウォーカーの黒が、千円で三杯飲めるということだろう。銀座のバーなら、普通は二杯しか飲めないのだ。

朝は朝で珈琲にサンドウィッチつき一〇〇円というケタ外れの安い朝食をサービスする。けだしスナックバーの本領を発揮するものといえよう。マネジャーの石田さんは大阪志郎そっくりの近代人。ウエイトレスも数人いるが、みんな個性的で美しい。

肉料理の本当のうまみ

神田『えびす』の巻狩焼

寒くなると家庭料理にすき焼が登場し勝ちだが、ちょっと待った体を温めるだけが目的ならいざ知らず、肉のうまみを味わって、しかも栄養をタップリつけようというのが目的なら、一度奥さん同伴で神田多町、神田小学校北角の『えびす』で巻狩焼を食ってからにするといい。

肉本来のうまみというものがどういう点にあるかがハッキリ解るから、以後家庭のすき焼巻狩焼の味が一段と冴えたものになるだろう。

巻狩焼は近頃急に有名になった肉料理だが、起源はすき焼よりずっと古く、鎌倉時代だそうである。巻狩の獲物をその場で焼いて食した古事を研究、『えびす』のアルジ堀川正勝氏が近代風な感覚を創えて創製したものだ。特殊な鍋で伊勢、江州産の牛肉を焼き、独得のタレをかけて食すのだが、肉汁のうまみがネットリ上面に浮び出て、タレと相まってすごくうまくなるから不思議だ。普通のすき焼はこのうまい肉汁を汁で洗い落してしまうからまずくなる。これを一度食べることで、奥さんの料理の腕は数段と上るだろう。二階には座敷もあって、数十人の宴会OK。電話（25）二六八七・〇八五二番である。

何でも他店の半値

秋葉原の酒場・泉亭

菊正宗の酒蔵というばかりでなく、お望みなら小売もしてくれるという、のんべえには有難い店が『泉亭』である。本店は秋葉原駅昭和通り口にあって、駅構内と屋根つづき。いつ何どきザッ！と来ても濡れずに帰れるところが人気を呼んでいる。最近、都電旅籠町電停前ヤッチャバ（青果市場）入口に支店を出した。

何から何まで安い店で、例えばビール（大）お通しつき一三〇円（中）九〇円と、のんべえには垂涎の的だが、安いのは酒ばかりでなく料理も一切ケタ外れた値段である。産地直送の生のいいうなぎを使った丼が一〇〇円。オデン定食はおでんの外赤だし、新香、ごはん付で八〇円、柳川鍋と来れば他店では優に二〇〇円は取るうまいやつを一〇〇円で食べさせる。その他インドカレー五〇円、一度訪ねるときっと常連になるのがこの店の特色だ。

五拍子揃った喫茶店

銀座二・マッキー

〝三拍子揃った〟店というのはときどきある。言葉としても使い易いからだろうが、ここに三拍子に二つ足して〝五拍子揃った喫茶店〟というのを紹介しよう。銀座二丁目四番地。越後屋ビル裏の二つ目通りにある『マッキー』がそれだ。

先ず音楽がいい。電蓄は銀座にも珍らしい高忠実度音響装置のスリー・ホーン。LP、SP、のジャズ曲を豊富に揃えて人気を呼んでいる。珈琲のうまさも銀座一を誇るものだし、その上八頭身の美人揃いのウエイトレス、素敵な雰囲気、然も安いとくればこれで五拍子だ。珈琲マニヤ、ジャズファンにいい喫茶店である。